

そんな時、NPO法人「LGBT の家族と友人をつなぐ会（以下“つなぐ会”）」に出会いました。その会で私と同じような悩みを経験してきた人たちの話を聴いて「私だけじゃなかったんだ」と感じました。

毎月つなぐ会に参加し、私自身の悩みを話したり、

参加者の悩みを聴いて一緒に考えたりする中で、誰もが
ありのままの自分(素自)で生きられる社会をつ
くるために、私にできることをしたいと思うように
なり活動を始めました。

コロナ禍になり、リモートで全国から集まった
保護者が、お互いの経験を出し合い、情報を共有し
合う「性的マイノリティの家族のための【みんなで
保護者会】」を始めました。また、それぞれの保護者
の経験が、みんなで考えるきっかけになればと考
え「保護者たちの言葉と行動の記録」というパンフ

レットを作成しました。

このパンフレットには、「性別に関係なく、あなた
はあなたとして、育ててきたんだよ」など、保護者が
子どもに伝えて良かったと思う言葉や後悔している
こと、保護者や本人が言われて嬉しかった言葉やしん
どかったこと等を掲載しています。

「LGBTの家族と友人をつな
ぐ会」のウェブサイトでは、
紹介したパンフレットや、つな
ぐ会の活動に関する情報が
ご覧いただけます。



ウェブサイト



パンフレット

Q 浦狩さんは、子どもたちにどのようなことを
伝えていきたいですか。

子どもたちに、私の子どもの話をした後、「みんな
のお家でこれから生まれてくる赤ちゃんもそうか
もしれないし、あなたの隣の人や、あなたが好きに
なる人がそうかもしれないんだよ」と話します。それ
は、子どもたちに自分事として考えてほしいからで
す。そして、「仲良くしてあげるとか、親切にしてあ
げるは無し。一緒に笑う、一緒に泣く、一緒に怒る。
みんなで一緒に大きくなってね」と伝えています。

私の話を聴いた後、いろいろな子が会いに来てく
れます。伝えたい思いをなかなか言葉にすることがで
きない子に「怖かったんじゃない?」「一人で頑張っ
てたんだね」と声をかけると、誰にも話せなかった思

いがあふれ出してくることもあります。また、「本当
のことを言ったら怒られたり、気持ち悪がられたりす
る。だから、男の子のふり、女の子のふりをしなけ
れば」と、ずっとありのままの自分を押し込めて生き
てきたことを話してくれた子もいました。

私が大事にしたいのは、そのような子どもたちの
思いをしっかりと受け止め、「私は、ありのままの
自分(素自)で生きようとしているあなたの味方」だ
と伝えることです。

活動を始めた頃に比べ、講演会や学校の授業など
でお話しする機会が増えました。誰もがありのままの
自分(素自)で生きられる社会を、みんなで一緒につ
くっていききたいという願いを込め、
活動を続けていきたいと思っています。



取材を終えて

浦狩さんが、子どもからカミングアウトを受けた
12年前は、スカートを履かなくてもいい高校はなか
なに見つからず、「あなたの子もただ、そんなわが
ママを聞くことはできません」と言われたこともあっ
たそうです。しかし今では、性別に関係なく選択でき
る制服を採用する学校が広がっています。また、
三重県では「性の多様性を認め合い、誰もが安心して

暮らせる三重県づくり条例」も制定され、社会の認識
は変わりつつあります。

取材を終え、私にもできることがきっとあると感
じました。全ての人がありのままの自分(素自)で生
きられる社会をつくるために
“私たち”にできることを、
一緒に考えてみませんか。

